

第3期宮前区区民会議 第6回 地参知笑部会 摘録

日 時 平成23年5月16日(月) 18:00~20:00

場 所 宮前区役所 第3会議室

参加者 委 員 山下委員長、恒川副委員長、持田部会長、久保委員、河井委員、
高橋委員、中村委員、吉田委員
直本副委員長(オブザーバー)
事務局 有山企画課長、雨宮係長、白石職員
佐谷コンサルタント

1 前回の振り返り

持田 冊子の目的としては「コミュニティの参加を促すもの」だと思う。

2 冊子による情報発信と仕掛けづくりについて

①委員が作成した宿題の報告

高橋 つくってみてターゲットを誰にするか、2年ごとに更新する仕組みをつくるのが重要だと思った。

山下 目次をつくってきた。まず宮前区に引っ越してきた人が知りたい情報を掲載してはどうかと思った。また、ガイドブックのガイドという話があったので「るるぶ川崎市」等に掲載された宮前区の紹介記事を抜粋した。

区 種村委員の宿題で出された資料は、「ゲートボール等をやりたい人が連絡が取れる情報が掲載されているものがほしい」とのことだった。

恒川 高橋委員の作成したA5判の冊子がいいと思った。10分ぐらいで読めるもの。また、住んでいるエリアのことがわかるようなものがないのではないかな。

②他の委員の目次アイデアの紹介

吉田 高橋委員の切り口がいいのではないかな。

久保 体験者のレポートが載っているといいと思った。長く住んでいるといろいろ載せたくなり厚くなる。このため、入居したばかりの若い世代、働き世代、高齢世代のおすすめコースをエリアごとにコーディネートし、体験を掲載する。

中村 大きさはA5判で、エリアごとにまとめる。

河井 1冊にするのは難しいと思う。種村委員の資料にあるようなガイドブックのガイドブックがあったらいいと思った。現在あるガイドブックを洗い出す作業が必要ではないかな。また、タイムリーな冊子があるとよい。2種類つくることも考えられる。

③目次案の検討

持田 これまでの意見をまとめると、転居した人をターゲットにする、参加ができるものとするのが上げられる。またガイドブックのガイドブックがほしいという意見があった。

久保 一般の区民がレポーターになったらいいと思う。「みやまえ子育てガイドとことこ」を使ってもらった体験もいいと思う。宮前を知りたい人のニーズを掘り起こしたい。

第3期宮前区区民会議 第6回 地参知笑部会 摘録

我々も勉強になるし、楽しいのではないかな。

持田 ニーズを先に把握した方がいいのか。

直本 ニーズはある程度想定した方がいい。

恒川 個々のニーズはいろいろある。それをどう位置づけるか。また、地域性をどう反映させていくか。難しいと思う。

久保 難しいので、公募してその人達と一緒につくってはどうか。

恒川 種村委員の提案はいいと思うが、市民の団体は300~500ある。それを掘り下げていくと収集がつかなくなる。エリア別でつくってはどうか。

区 引っ越してきた人が地域で活動するに至るストーリーを紹介してはどうか。ゲートボールやいろいろな団体をすべて紹介するのは難しい。サンプルとして紹介する。

持田 ゲートボールをやりたい人が自分で参加するストーリーというより、動かない人を引っ張ってくるというのが元々のストーリーだったと思う。

直本 自分の地域から離れていたらいけないので、エリア内の活動を基本にする必要がある。

久保 健康の切り口なら、公園体操を体験してもらおう。そして、公園体操がこんなにあるということを紹介する。1冊だけではなく、何回か出していく。

恒川 エリアによって特性があると思う。それを出してはどうか。

高橋 エリアごとの冊子であれば、お散歩マップを掲載すればいいだけだと思う。また何かに参加することを促すだけだと参加で終わってしまう。担い手育成につながる仕掛けもほしい。市民活動グループの情報発信の方法も重要だと思う。

直本 ニーズはいままでの話し合いである程度、出てきている。目次を作った方がいい。

吉田 高橋委員の目次の立て方がいいと思う。

持田 高橋委員の目次にエリア別を組み込む。

高橋 お店はどこまで載せられるか。

恒川 それは今後、議論していく。

区 グルメとして特定のお店を掲載することは難しいと思う。

持田 目次を検討したい。「引っ越してきたばかりの人」が目次でいいか。

恒川 地域ごとの目次としてはどうか。

佐谷 まずページ数を考えたらどうか。

持田 これまでの議論では、A4判で16~20ページ程度であったと思う。

恒川 エリア別で、その地域には、その地域の冊子だけを置くようにする。

高橋 マップにすると捨てられることが多い。

吉田 エリア別だと趣旨がぼけるのではないかな。

直本 坂道の場合はエリア別になると思う。まとめ方を違うようにしてはどうか。地産地消なら自分の住んでいるエリアにこだわらないと思う。

佐谷 引っ越したばかりの人を年代別に若い世代・働き世代、高齢世代の3パターンに分けると2ページ×6パターン=12ページとなる。各パターンで1エリアを受け持つと6エリアはカバーできる。その他に体験できるページ4ページ、ゲーム2ページとすると18ページになる。

直本 「引っ越したばかりの人」より「宮前区をよく知りたい人」の方がいいのではない

第3期宮前区区民会議 第6回 地参知笑部会 摘録

か。

高橋 若い世代には、高校生や大学生を追加してはどうか。また、ガイドブックのガイドは必要だと思う。ガイドブックについては各部署にどんなものを出しているか照会してその結果を観光協会のホームページに載せようと考えている。

山下 人口などは巻末に載せてはどうか。

持田 これまでの議論から目次としては以下のようなものが考えられる。

1. 宮前区をよく知りたい人のために（引っ越してきたばかりの人など）
 - ・高校生・大学生
 - ・若い世代（子育て世代）
 - ・働き世代
 - ・高齢世代
2. 体験できるページ
 - ・世代を超えて
3. ゲーム、参加
 - ・景品を出す？
4. ガイドブックのガイド
5. 宮前区のプロフィール、概要

持田 コミュニティに参加してもらうことや、宮前区を知ってもらうことが目的であることを忘れないで進めていく。

河井 宮前区が一生懸命やっていることが伝わると好きになってくれるのではないか。また、行動につながることも期待できる。

持田 大まかな目次はこれでいいか。詰めていく中で削ったり、追加したりするものが出てくると思う。

恒川 「宮前区をもっと知っていただく」というタイトルにしてはどうか。

直本 見る方は「もっと知りたい」という思いで見るといい。

持田 被災地では震災前から顔見知りになっていたから避難所に行ってもよかったという話を聞いた。横のつながりをもってもらえるといいと思う。少しでも輪ができるといい。

区 中身を考えていただくようお願いしたい。余裕があれば紙で出してもらえるといい。

3 その他

- ・次回は6月14日（火）の6時から。